

Shimane
University Library
Bulletin

松江

2013
December

VOL. 15

Shoun

2 | 特集

附属図書館本館 リニューアル・オープン!

6 | しまだい資料探訪⑫

「せん しょう ぎん しゃ剪淞吟社関係資料」

小林奈緒子(情報サービスグループ)

8 | 図書館員のお仕事
広報 —どうすれば情報は伝わるか—

10 | 図書館コンシェルジュ報告

12 | 自著紹介
職員寄贈図書

13 | 書評

14 | 研修報告

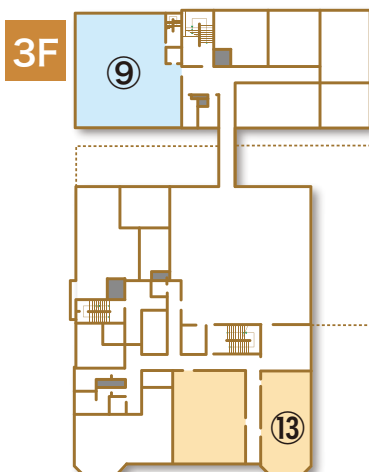
15 | イベント&ニュース



特集

附属図書館本館 リニューアル オープン！

みなさん、新しくなった図書館を上手に利用していますか。
リニューアル・オープンした本館を、図書館コンシェルジュがご案内します！



館内は、奥へ行くほど
静かになっているのです。

研究ゾーン

研究 静

学習ゾーン

学習 静

交流ゾーン

交流 動

階段

エントランス





Point 1 : 多様な学習スペース

グループでのディスカッションや打合せ、ちょっとしたイベントの開催などができるラーニングcommons、話し声を気にせずにディスカッションできるグループ学習室など、これまでの「静かに利用する」から議論可能な多目的空間ができました。



みんなで
アクティブ
ラーニング!



①ラーニングcommons ②ラーニングcommons2

友達どうしやグループでの学習・ディスカッションだけではなく、移動式のプロジェクタ、大画面の電子黒板 (Bigpad)、ホワイトボードなどの設備が使えるので、ゼミや打合せ、プレゼン、発表会などにも利用できるのです。



④グループ学習室 1 & 2

少人数 (3~12人) のグループ学習をしたい時は、こちらの2部屋がおすすめです。壁のホワイトボードを駆使すれば、議論が白熱すること間違いなし。空いていればいつでも申し込みます。



③PCルーム

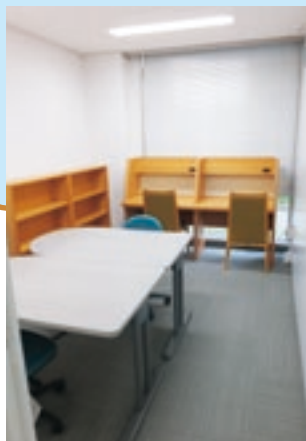
ここでは、レポート作成やネットを使った調べ学習はもちろん、CD-ROMを利用した語学学習も可能です。講習会も開催しているので、ぜひ参加してください。



今日は一人で
静かに勉強...



⑤研究個室



とにかく静かな空間を、という方には研究個室がおすすめです。たくさんの資料を持ち込んだり、PCのキーボードの音なども周りに気兼ねせず、集中して勉強や調べ物ができます。

一人静かに学習したい人には閲覧室や研究個室がおすすめ。用途に応じて選べる多様なスペースを用意しました。

⑥窓際のカウンター席

明るい日差しと目の前に広がるロケーションに癒されます。人の動きを気にすることもなくマイペースで勉強できる窓際は落ち着きますね。

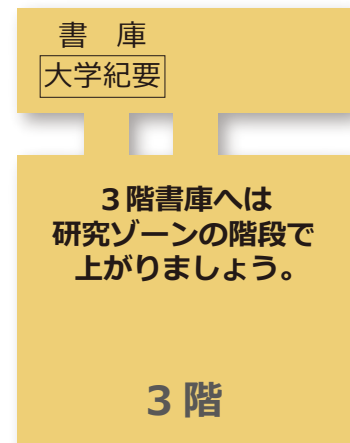
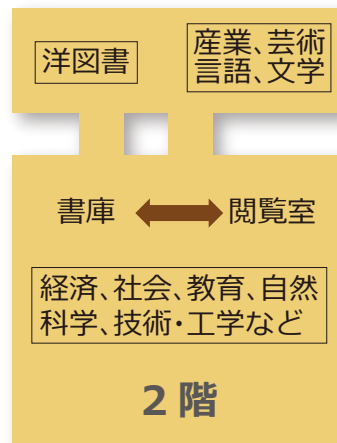
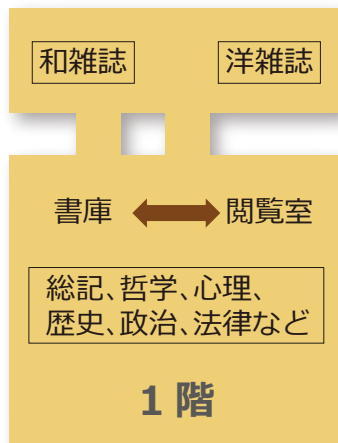


Point 2 : 図書や雑誌の配置は？収蔵力もUP!



図書は、NDC（日本十進分類法）順に、分かりやすく並べ替えました。また、同じフロアの閲覧室と書庫には、同じ分野の図書が並んでいます。これにより、複雑だった動線がシンプルになりました。

学術雑誌は1階の東側（研究ゾーン）に集約し、和雑誌と洋雑誌をそれぞれ書庫と閲覧室に配置しました。製本雑誌を含めたタイトル順に並んでいます。新着雑誌は閲覧室の手前に置き、利用者に分かりやすい配置になっています。



⑦閲覧室



⑧雑誌電動集密書架



⑨3階書庫



⑩AV資料

AVルームから持ち出して、カウンターへ申し込みます。部屋の奥には2～3人で一緒に視聴できるグループブースがあり、ひそかな人気です。

⑪新着図書

⑫新聞・雑誌

入口に近い場所にまとめて置いています。



⑬郷土資料ほか

島根県関係の遺跡資料や郷土資料、八雲関係をまとめて3階の地域資料室に置いています。

⑭新書・文庫

2階の吹抜けの周囲にあります。ラウンジで読んでもOK。一部は書庫にもあります。

1階研究ゾーンに洋雑誌を置くため、新しく電動集密書架を設置しました。約7万冊が収蔵できるため、これまでより45,000冊も収蔵力がUPしました。開閉が静かで安全。ボタンひとつで操作も簡単なので好評です。



さあ、もっと賢く図書館を使いましょう



基本的な使い方がわかりましたか。でも、図書館はそれだけじゃありません。もっと便利な機能や使い方がたくさんあるのです。

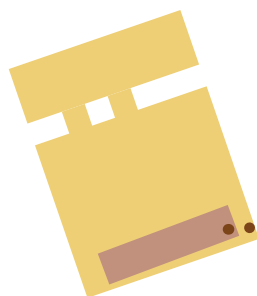
コンセプトのひとつ、「長時間滞在型」図書館。ただ勉強するためだけではなく、空き時間を有効に活用するためにもぜひ図書館をご利用ください。

◎ 閲覧機の機能アップ

閲覧机にはすべて、電源コンセントがついています。4人掛け机の脚部分には、荷物を掛けるためのフックが、窓際の机には、ワンタッチでON/OFFできるLED照明が付いています。その日の気分で、広い机を使ったり、一人でじっくり…場所を変えるといいですね。

◎ 無線LANがどこでも使える

館内のほぼすべての場所で無線LANが利用できます。PCルームは混んでいて落ち着かないという人は、マイPCを持ち込んで、お気に入りの席で利用できますね。

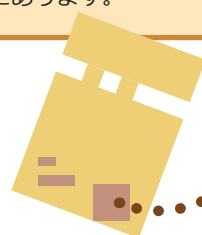


⑫ 新聞を読む

図書館には朝日、読売などの全国紙、中国地方の地方紙など各紙そろっています。ニュースはスマホでも手に入るけど、新聞を読むことも勉強のひとつです。例えば地元紙や日経新聞などは、就職活動にとっても役に立ちます。バックナンバーは、5階書庫にあります。

◎ 能率アップには休憩も大事

⑮1階ロビー、⑯2階ラウンジにリフレッシュコーナーを整備しました。⑩AVルームでは、テレビやDVDを観ることができます。本やパソコンにとらめっこしすぎて疲れた時、授業の間のちょっとした空き時間に、図書館のくつろぎ空間へどうぞ。AVルーム以外は、飲み物（蓋付き）もOKです。



⑪ 返却図書をいち早くチェック

返却された図書は、いったんカウンター前の黄色いブックトラックに置かれます。みんなどんな本を借りているのかなあ。あっ、この本課題にぴったり、なんて発見があるかも。ぜひチェックしてみてください。



◎ 何を借りようか迷ったら

⑪新着図書コーナーやおススメ図書の⑬ひとたなブックスをチェックしてみてください。普段は借りないような本で、面白そうなものが見つかるかも。⑭ブック★コンパスの展示があったら、そちらも覗いてみてください。



リニューアルした図書館のこと、どれくらいご存知でしたか。これからも皆さんのご意見をいただきつつ、よりよい図書館づくりをしていきたいと思えます。

最後にお願いします。図書館は大勢の人が利用する場所です。来た時よりも美しく、設備や資料を大切に、周囲の迷惑にならないよう、ルールを守って気持ちよく利用しましょう。

第12回

しまだい
資料探訪

島根大学

せんしょうぎんしゃ
「剪淞吟社関係資料」

— 小林奈緒子／情報サービスグループ —

島根 根大学附属図書館は、多くの郷土関係の資料を所蔵しています。が、今回はその中から、島根の近現代にゆかりの深い人物たちの資料を紹介します。

山陰では、かつて漢詩が盛んな時期がありました。特に明治から昭和のはじめにかけて活動の中心を担ったのが、剪淞吟社^{せんしょうぎんしゃ}という全国的にも大きな結社でした。剪淞吟社は、当時の知識人や地方名望家が広く集った組織でした。例えば、松江出身の実業家で美術に造詣の深かった桑原羊次郎、同じく雑賀町出身の政治家・若槻禮次郎、日本銀行重役・山口宗義などが支援するなど、幅広い強固な基盤があり、剪淞吟社の繁栄を支えました。

この剪淞吟社は、『剪淞詩文^{せんしょうしぶん}』という月刊の機関誌を1917（大正6）年5月より発行しており、ただ漢詩

を自分たちで作って楽しむだけではなく、漢詩の普及や郷土漢詩を中心として過去の漢詩を掘り起こし、郷土詩人の顕彰事業も行っていました。この『剪淞詩文』は、その後1935（昭和10）年10月まで、18年間に143号を刊行しました。本格的な漢詩文の雑誌としては他にもありましたが、「内容が充実していて水準が高く、かなり長期に渡って継続的に刊行された、本格的な漢詩文雑誌は地方の小都市では他に例がなく」、また「吟社の活動はつづきに雑誌に記録され、今日においてその全貌を知ることが出来」、「日本の地方文化という観点からも、貴重な資料⁽¹⁾」といえます。

『剪淞詩文』は、散逸していたものを本学の名誉教授であった入谷仙介氏の尽力により収集・整備され、島根県立図書館と当館、境港市図書館の三館で保存しています。



剪淞詩文

『剪淞詩文』は初め四六判でしたが、のち菊判に改めて大型化されました。編集は、のちに松江市の二代目市長を務めた高橋義比^{たかはしよしか}（菊怪）も退職後、1926（大正15）年2月から1932（昭和7）年まで担当しています。彼は、もともと教員でしたが、初代市長福岡世徳^{つきのり}に招かれて助役となり、市政を支えました。福岡が退任後、

市長となりました。高橋も漢詩をたしなんでおり、高橋が詠んだものを、没後嗣子^しが『菊怪詩存』として刊行しました。こちらは、松江高等学校と桑原羊次郎に寄贈されたものを、当館で所蔵しています。

『菊怪詩存』をみてみると、たびたび「克堂」という号をもつ人物が登場することが分かります。これは、若槻克堂、つまり若槻禮次郎のことです。若槻は、漢詩を好み、剪淞吟社にも援助をしていたようです。また、剪淞吟社の名誉会員として名を挙げられています。

剪淞吟社にゆかりのある人物の作品は他にもあり、例えば安来出身の実業家で農事改良につとめたほか、安来銀行、合同汽船、安来製鋼所などを創立し、のちに安来町長を経て衆議院議員になった並河理二郎^{なみかわりじろう}（適処）の『適処遺稿』なども、当時を知る貴重な資料の一つです。適処は、1912（大正元年）11月に吟社へ入社しました。この時期から吟社は松江の詩社から全国へと拡大していったようです。

この他にも、剪淞吟社の社長であった村上琴屋^{きんぐ}の『琴屋詩存』や、『剪淞詩文』の編集にあたった信太淞北^{しんたそうぺい}の『淞北夜譚』（桑原文庫）、同じく編集にあたった谷口廻瀾^{かいらん}の『廻瀾余滴』なども当館で所蔵しています。



菊径詩存

村上琴屋は、島根県庁に勤めていたが、隠岐の島司を最後に引退しました。引退後は、旧藩主であった松平家の家令となりました。初期の剪淞吟社はこの村上琴屋が社長で選輯し、木次町日登の医者であった横山耐雪が編集長となって運営されていました。

谷口廻瀾^{かいらん}は広瀬藩の儒者、山村勉齊の二男で、各地の中学校に勤務しました。松江中学には23年間勤務し、その間島根県教育会の機関誌「島根教育」を執筆しました。『剪淞詩文』の編集では、高齡の高橋をよく補佐し、晩年は若槻禮次郎とも詩を通して交流を深めました。



適処遺稿

信太淞北は、税務官吏として各地を転々とし、1922（大正11）年に松江に帰り、翌年の10月より2年間、剪淞吟社で編集にあたりました。生前に『剪淞詩文』に掲載された文章は20篇に及びます。

これらの人々に支えられた剪淞吟社は、最盛期には島根県内の人間だけではなく、東京をはじめ全国100名以上の同人が所属していたことが明らかになっていきます^②。同吟社は、例会をはじめ、四季折々の小詩会を開くと共に、山陰詩人大会のような総会を定期的に開催していました。

これら、剪淞吟社に関わる数々の資料は、近年図書館の目録の遡及入力が進んだために、その存在が確認できるようになりました。点在していた資料が全体としてつながっていたことが分かります。

また、当時の様相を知る手掛かりとして、資料そのものは所蔵していません



琴屋詩存ほか

んが、島根大学法文学部山陰研究センターの山陰研究プロジェクトで翻刻が進められている初代松江市長福岡世徳の日記等の翻刻「福岡世徳文書」^③の一部や、当時の新聞史料を併せて読み進めていくことも重要です。「福岡世徳文書」の翻刻は、山陰研究センターの『山陰研究』、あるいは電子媒体を「島根大学学術情報リポジトリSWAN」で閲覧することが出来ます。

このように、学内にある他の資料を交差して読み進めていくことで、近代松江の発展を支えてきた人々がどのように交流し、その人脈を広げてきたのが理解できると思います。それは、

まだ十分に明らかにされていない近代松江の様相を描いていく作業にもなることでしょう。地域資料室や書庫、あるいは貴重資料室に保管されているこれらの資料の数々は、そのような可能性を秘めた貴重な資料でもあるのです。

（こばやし なおこ）

- (1) 入谷仙介「漢詩文雑誌『剪淞詩文』（『山陰の近代漢詩』山陰の近代漢詩刊行会発行、2004年）
- (2) 研究代表者・道坂昭廣「剪淞吟社資料の整理・保存及び同吟社の文学活動に対する実証的研究」（平成17年度・平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書）

- (3) この翻刻をもとに書かれた『初代松江市長福岡世徳…その旅と松江振興策』も参考になる（竹永三男著、島根大学法文学部山陰研究センター、2013年）

【参考資料】

- ・入谷仙介『出雲漢詩散歩』（ふるさとブックレット山陰の自然と文化6）たたら書房、1987年
- ・入谷仙介・大原俊二『山陰の近代漢詩』報光社、2004年

図書館員のお仕事



「広報——どうすれば情報は伝わるか——」

情報サービスグループ 小豆澤悦子

1. はじめに

図書館では通常のグループ業務とは別に、グループをまたぐ内容について、チーム業務として取り組んでいるものがあります。例えば蔵書構築、所蔵資料の調査研究、地域連携などです。その中のひとつに広報があります。タイムリーな情報やサービスを提供する図書館では、広報という仕事はますます重要になってきています。広報手段も紙媒体、電子媒体でそれぞれメリット、デメリットがあります。広報チームでは、広報誌（館報、年報、ニュースレターなど）の発行以外に、館内サイン（案内）や展示活動などの業務も広い意味での広報と捉え、図書館の有効利用、利用促進に取り組んでいます。

2. 館内サイン

今年4月に本館がリニューアルオープンしましたが、改修工事に際して重要視したもののひとつが館内サインです。サインには、表1のような役割があります。これまでの図書館は、案内板などのサイン類がほとんどなく、どこに何があるのか、どのように利用するのがかわりにくい状況でした。リニューアルした図書館では、必要な場所に、目的に応じたわかりやすいサインを設置しました。

表1 サインの種類と目的

種 類	目 的
①施設案内サイン	館内の資料、施設、設備等の配置を案内
②名称サイン	館内施設の名称を案内
③利用案内サイン	利用方法や利用上のルールを案内
④誘導サイン	矢印等で目的の場所へ案内 避難経路を案内
⑤規制サイン	利用上の注意事項・禁止事項を案内

■ゾーンカラー

全館共通で使用するベースカラーは「ライム」をイメージした黄緑です。これに加え、3つのゾーンにそれぞれ「交流」オレンジ「学習」緑「研究」青のゾーンカラーを定め、色彩により場所や目的を明確に識別できるようにしました。ゾーンカラーは遠くからでもよく目立ち、学習意欲を高めたり、活気のある居心地のよい雰囲気づくりにも役立っています。

■形態とデザイン

館内サインには、壁付型、天井吊型、



②③名称、コピー機の利用案内



①⑦施設案内



②③ラーニング commons の名称、利用案内



③⑤入館ゲートの利用案内

スタンド型などがあります。それぞれ形態が異なるため、できるだけ同じ色調や素材のものを選び、雑然としたイメージにならないようにしました。全体的には大学図書館にふさわしい、落ち着いたシンプルなデザインをベースとし、一部にデザイン性のある大型のサインを設置してメリハリをつけました。資料配置や利用方法など内

3. 広報〈掲示板〉

容が更新されるものについては、変更が容易にできるようプリントアウトしたものを挟み込むパネルタイプのものにしてきました。施設案内サイン、名称サイン、誘導サインは、利用者の動線を考慮し、必要と思われる場所に設置しました。利用案内サインには、簡潔な表現で特徴や目的、利用方法を記載しました。規制サインには、飲食禁止、立入禁止などの規制のほか、安全上のための規制も含まれます。

ポスターや掲示物のための掲示板は、図書館関連とそれ以外のものを明確に分けて貼るようにしました（表2）。掲示板の一角には、学生向けの論文や作品募集コーナーを設けています。

これまでは掲示板が狭く、ポスターや掲示物などが雑然と貼られていました。美観を損ねないよう、掲示物を作成する際は統一感のある色やデザインを心掛け、壁への直貼り

表 2 館内掲示板

場 所	内 容
⑥新聞雑誌コーナー	投書への回答
⑦玄関ロビー	館内フロア図 開館カレンダー 図書館サービス及びイベント情報 学内のイベント情報
⑧ホール	地域のイベント情報 他機関イベント情報 論文等募集コーナー

5. 館内展示

飛び込んできます。
基本的な利用案内からイベントのお知らせまで様々な情報を提供しており、「ここがセンスの見せどころ」と、職員がデザインを工夫しながら、定期的に内容を更新しています。

改修に伴い、展示専用の部屋ができました。島根大学同窓会資料の常設展示と、定期的に入れ替える企画展示を開催しています(表4)。
⑭⑮は壁面の天井までいっぱいを利用

用した展示ウォールです。専用のパーツを使用することで、パネルやポスターだけでなく、様々な物の展示が可能です。展示コーナーは学習成果、作品発表の場として提供しています。学生のみなさんの、アイデアに溢れた展示をお待ちしています。

合理的で効果的な広報の手段として、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどの情報発信ツールが利用されるようになりました。気軽に投稿できたり反応が得られる半面、明確な基準のもとで活用しないとトラブルの原因にもなります。
やり方次第でイメージアップにもイメージダウンにも繋がる広報は、館として一体感のある戦略が必要です。図書館の業務や活動を理解し活用してもらえよう、利用者の視点に立ちつつ、遊び心や個性のある広報を行っていき

(あずきざわえつこ)

6. 新しいコミュニケーションツール

4. 広報 〈電子掲示板〉

くしました。また、掲示期間が長いものは壁付の掲示用パネルへ、期間限定や一時的なものはフロアスタンドを使用するなど、効果的な使い分けをしています。



⑧ホール掲示板



⑥投書コーナー



⑭展示ウォール



③⑫PCルームの利用案内



⑦玄関ロビー



③⑪階段の電子掲示板



③⑤⑩ホールから見上げるサイン

表 3 電子掲示板

場 所	内 容
⑨玄関前アプローチ	年間開館スケジュール 図書館イベント情報
⑩ホール	利用案内
⑪階段踊り場	図書館サービス及びイベント情報
⑫PCルーム前	講習会の開催スケジュール

表 4 展示コーナー

場 所	内 容
⑬展示室	常設展示(島根大学同窓会資料) 企画展示
⑭1階/2階渡り廊下	図書館の資料紹介など 利用者による企画展示
⑮PCルーム前	図書のテーマ展示 電子資料に関する情報 図書館の活動の紹介

図書館コンシェルジュ報告

Library Concierge Report

第3回 大学図書館
学生協働交流シンポジウム

法文学部 法経学科 3年 西 秀美

学生による利用者サポートを行う図書館コンシェルジュも4年目。
今年度は、2回生から博士課程の院生まで、専攻分野も様々な総勢
16名で活動中です！

平成25年9月5日と6日の2日間、島根大学において、第3回大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、各大学の図書館で活動する学生協働スタッフと、互いの活動を報告し合い交流することを通して、各大学でのより発展的な活動に結びつけることを目的として



開催されています。今年は、全国の大学に参加を呼びかけて開催し、15大学から約100名が参加しました。今回のシンポジウムは「私たちの手でつくり出す図書館の形―人を惹きつける空間を目指して―」のテーマのもと、基調講演や基調報告、参加大学ごとの発表などが行われました。

シンポジウム初日は、大阪芸術大学図書館課長の多賀谷津也子氏による基調講演から始まりました。講演では「学生目線で作る新しい図書館の形」をテーマに、大阪芸術大学で実際に行われている取り組みや、図書館資源として「空間」を考えることになされた図書館の活動を紹介されました。特に、芸術学部が設置されているという大学の特性を活かして、図書館に芸術作品が展示されている点が印象的でした。

「図書館といえば本があるところ」という先入観があったので、美術館のような様相を呈している図書館の写真が新鮮に感じられました。続いて行われた基調報告では、筑波大学附属図書館のラーニングアドバイザーの方々が、図書館で行われている学習支援活動について報告されました。筑波大学では、ラーニングアドバイザーと呼ばれる学生スタッフが学生を相手に学習支援やレポート・論文の書き方について指導していると聞き、図書館と学生の新たな関わり方だと興味深く思いました。

その後、それぞれの大学の学生協働スタッフの方々による図書館活性化の取組事例報告とポスターセッションが行われました。大学ごとに図書館でどのような活動を行っているのか、今後図書館をどうしていくべきかといったようなことが述べられていました。大学によって特色を活かした工夫に違いがあり、自身の大学で行っていること

が全てではないのだと改めて実感することができました。また、発表の内容はもちろん、発表者の方々の様子からも図書館作りに対する熱意や姿勢が伺えて、いい刺激を受けることができました。

各大学からの発表の後は、島根大学図書館コンシェルジュが、参加された他大学の皆さんに島根大学附属図書館を案内しました。その際、私たちが普段当然のように利用している図書館の設備、たとえば電子黒板や貸出バッグなどへ意見・質問を頂き、案内や詳しい説明をするには図書館についてもっとよく知る必要があると実感しました。

1日目の最後には、シンポジウム参加者による交流会が開催されました。そこでは、パワーポイントやポスターによる発表とは違う、参加者の方の生の声を聞きながら気軽に意見交換ができ、図書館に携わるもの同士としてお話しできてとても有意義でした。図書館サポーター以外の話題でも盛り上がり、楽しいひとときを過ごす事ができました。



2日目はまず、「ピアサポーターがつくる新しい図書館の形」というテーマで私たち島根大学が発表を行いました。



ました。事前の話し合いで、島根大学は利用サポートの内容を中心とし、コンシェルジュ活動の体験記という形で報告を行うことになりました。発表内容を議論するなかで、結果的に、レファレンスの失敗点等を改めて検討し課題を浮き彫りにすることができました。実際に発表した際も、多くの質問や意見をいただくことができました。

その後行われた図書館カフェでは、「人を惹きつける図書館をつくるためにあなたは何をしますか？」というテーマで話し合いをしました。これはワールドカフェの形式で進められ、テーブルごとに模造紙を囲んで、イラストや思った事を気軽に書き込むという形式だったので、話し合いの成果が分かりやすかったです。

午後には施設見学として、島根県立大学のおはなしレストラン・ライブラリーに行きました。私たち島根大学は、



今回のシンポジウムの主催大学であったため、他大学の図書館を見学できないのを少し残念に思っていました。そのため、おはなしレストランに行き、自分自身の目で他大学の施設を見るこ

とができて、とても嬉しく思いました。施設内にはたくさんさんの絵本がおさめられていて、それを読めただけでなく、島根県立大学の学生の方に読み聞かせもして頂けて、とても楽しかったです。

こうして2日間に及ぶシンポジウムが終了しましたが、今回のシ

ンポジウムを通して、島根大学と他大学の違いを認識することができました。島根大学では当たり前のこと、たとえばコンシェルジュが文系理系を問わず、留学生・院生に至るまで幅広く参加していることや、分類番号を書いた書架のしきりの存在が、他大学ではあまり見られないことだと分かりました。

一方、他大学では地域の方と合同で読書会が開かれていたり、カウンターの日誌を学生と図書館職員が共同で記入していたりと、思いもよらない切り口でのアプローチを知ることができ、島根大学で行われていることが全てではないと改めて実感しました。島根大学ならではの長所をきちんと知ったうえでそれを伸ばし、一方では他大学で行われている取り組みを積極的に取り入れる、といった活動の指針を得られたのではないかと思います。たとえば、島根大学ではコンシェルジュ同士、コンシェルジュと職員間での交流が不足しているのでは、という意見がシンポジウムの準備段階から出ていました。そこで、カウンター日誌を交換日記のような形態で行う、という他大学の方法を取り入れるといったように、シンポジウムで得られたものを柔軟に吸収することで、課題の解決に繋げる手がかりになり得ると思います。また、コンシェルジュの構成員が幅広いことを活かし、それぞれの専門分野オスメの本を選ぶブックコンパスをやってみ



る、というような取り組みを行えば、島根大学のよさを活かせるのではないかと思います。

シンポジウムに参加させて頂き、多くの方の意見に触れたことで、図書館作りに貢献する意欲を高めることができました。また、図書館をよりよいものにしていくための取り組みを見つける、有意義な機会にもなったと思います。今回のシンポジウムを通して得られた事を、しっかりと今後の活動にいかしていきたいと思います。

(にし ひでみ)

著 介 自 紹

『中世水運と松江 城下町形成の前史を 探る』

(松江市ふるさと文庫15)
松江市教育委員会
文化財課史料編纂室, 2013.1

教育学部
共生社会教育講座教授 長谷川博史



本書は、松江市教育委員会が地域限定で公開している「松江市ふるさと文庫」の15冊目にあたる。

松江城下町については、「堅固な要塞都市として、いかに防御の工夫がなされていったか」という説明を聞かれたことがあるかもしれない。また「水路が発達し、経済活動が盛んであった水の都」という説明を聞かれたかもしれない。それらは、いずれも事実であるけれども、実際には両者の両立は容易なことではなく、矛盾していると言ってもよい。前者は城下町建設当時の武家権力の意思であり、後者は17世紀後半以降の実態である。城下町を理解するための鍵は、その歴史的な展開過程や形成のされ方

の中にあると言える。

そもそも、何故ここに城下町がつけられたのか。松江城下町を素材としてそのようなことを考えていくと、その背後からは、アジア諸海域やヨーロッパともつながるような大きな時代の転換が見えてくる。

江戸時代の初め、出雲・隠岐を領した堀尾吉晴は、居城の月山富田城(安来市)とその城下町が手狭であり、戦術的にも時代遅れであったから、松江城とその城下町を建設することにした、と言われていくうちに、それがいかに困難で、とてもない大事業であったのかということが、次第に明らかになってくる。集住する人口規模を収容するためとはいえず、山を崩し、湿地を埋め立てるなど、大規模な土木工事を行う必要があるような場所を、何故わざわざ選ぶ必要があったのか。その手がかりは、中世に展開してきた水運をはじめとする物流・交流、港湾都市の形成、石見産銀の増大による流通構造や社会構造の大きな変化にあるのではない。本書は、断片的な様々な史料を用いながら、そのような課題に取り組みうとしたものである。

松江市のみならず、日本の多くの地方都市を語る上で、城下町の成り立ちを考えることは、とても重要な課題である。本書は、その叩き台にすぎないが、今後さらに検討が深められていくことを期待している。

【本館3F地域資料室郷土】 201.731 Mat6/152

(はせがわ ひろし)

職 員 寄 贈 図 書

(平成 24 年 12 月～平成 25 年 9 月)

■ 本館

飯野公央(法文学部)	写真でたどるハーンの1年2ヶ月
上園昌武(法文学部)	先進例から学ぶ再生可能エネルギーの普及政策 ノーモア・フクシマ! : どうする島根原発!! 「原発ゼロ」プログラム：技術の現状と私たちの挑戦
大橋泰夫(法文学部)	古代日本における法倉の研究
竹永三男(法文学部)	初代松江市長福岡世徳：その旅と松江振興策
田籠 博(法文学部)	都道府県別全国方言辞典
出口 顕(法文学部)	レヴィ=ストロース：まなざしの構造主義
丸橋充拓(法文学部)	中国古代軍事制度の総合的研究
宮本恭子(法文学部)	介護現場における人材の確保と定着：持続可能性の高い施策をめざして
法文学部地理学研究室	2012年度鹿児島県巡検報告書
作野広和(教育学部)	美郷町地誌(人文地理学教育・研究叢書 45) 統語論(朝倉日英対照言語学シリーズ 5) 言語変化：動機とメカニズム 書評から学ぶ理論言語学の最先端 上・下 ウィズダム英和辞典 3版
縄田裕幸(教育学部)	
長谷川博史(教育学部)	中世水運と松江：城下町形成の前史を探索 産金村落と奥州の地域社会：近世前期の仙台藩を中心に
富澤芳亜(教育学部)	中国経済史入門
汪 発武(総合理工学研究科)	Progress of geo-disaster mitigation technology in Asia 山陰地域の斜面災害
田中章司郎(総合理工学研究科)	Improvement of MX-CIF Quadtree: With Downloadable Source Code and Benchmark Datasets
石田 章(生物資源科学部)	開発と個人・集団
小林伸雄(生物資源科学部)	津、し絵本解説

■ 医学図書館

小林祥泰(学長)	ハリソン内科学(第4版) 1・2
木下芳一(医学部)	症状からアプローチするプライマリケア(生涯教育シリーズ)
長井 篤(医学部)	臨床検査のガイドライン：検査値アプローチ・症候・疾患
吉田 浩(名誉教授)	ヴォート生化学(第4版) 上・下
附属病院	島根大学医学部附属病院医薬品集(第16版)

書評

怠け数学者の記

小平邦彦著
岩波書店
1986.5
ISBN:4000057405



総合理工学部 電子制御システム工学科 4年 竹久弘晃

現代数学の発展に大きく寄与した、数少ない日本人として数学史に名を残すであろう著者のエッセイ集である。内容は、「数学とはなにものであるか」についての著者独自の考え、数学教育についての考察、それと著者のプリンストン高級研究所勤務時代の家族との手紙が主である。

この本のもっともおもしろいところは、著者は、数学は高度に感覚的な学問であると述べているところであろう。著者曰く、人が数学を行うとき、「数覚」という五感によく似た感覚で数学的現象を「見て」いる。数学の証明を追っていくうちに定理を理解するというのは、定理の述べる数学的事実を感覚的に理解することである。著者程の数学者が、ある数学の定理を理解するために何をしているか。定理を何度もノートに写すそうである。何度も写しているうちに、完全な証明の暗記でなく感覚的に定理がわかってくるものだそうである。これもやはり数覚というものにより、定理への道筋が見えるのであろう。そしてこの数覚を養うには、機械的訓練が不可欠であると著者は語っている。

著者は数学教育にも関心を持ち、現在の受験教育は学問の勉強というよりも、受験技術の練習という面が強いという批判も本書にはある。

自分で考える学問の数学は楽しく、受験技術的な数学はつまらない。例えば、受験の数学はバスツアーのようなもので、自分で考える数学は一人旅のようなものであるだろう。バスツアーは楽で失敗はないかもしれないが、一人旅のように自分で時間の許す限り好きな事をする楽しみはない。一人旅の失敗というものは、それもまた良い経験になると思う。もちろん、一人旅では準備が必要である。この準備にあたるものが数学では機械的訓練による数覚の養成なのであろう。

数学という世界は、自分の感覚に導かれて旅をするところに魅力があるのではないか、この本でそんな考えが浮かんだ。

(たけひさ ひろあき)

【本館・2F閲覧室 410.49/Ko17】

動的平衡

生命はなぜそこに宿るのか

福岡伸一著
木楽舎
2009.2
ISBN:9784863240124



医学部 医学科 4年 加納希生

「なんだか、難しそう…」と、タイトルで引いてしまった方には是非読んで貰いたい作品です！一風変わった生命に関する科学書のご紹介です。

「科学書」と言っても、お堅そうに見える表題とは対照的に、とっても軽快な筆致で書かれた一般向けの書籍です！身近な話題を例に挙げながら、表題となっている「動的平衡」の説明に向かってグイグイと読者を引っ張っていきます。随所に社会現象や生物現象の背景トリビアが豊富に盛り込まれているので、最後まで全く飽きず読了できますよ！

さて、表題にある「動的平衡」とはなんのでしょうか。一言でいえば「あなたの体(の細胞)は常に入れ換わっています」ということです。例えばあなた自身の体を考えてみてください。1年前のあなたと今のあなたは同一人物ですか？…突然意味の分からない質問となりましたね。しかし、よくよく考えてみると、的を射た質問です。細胞は代謝を繰り返していますよね。赤血球は約4カ月で死んでしましますし、気になるお肌なんか1ヵ月程度で入れ替わっています。人間の細胞は、数か月もすればすっかり別のもので入れ替わっているのです。まるで川の流れを作る水のように。それでも同一人物でしょうか？この問の答えになるのが本書で紹介される「動的平衡」です。

…イメージがわからない？そうですね…僕の拙い文章では、なんとも表現し難い！本書を開いて、筆者のテンポの良い文体を楽しみながら生命科学の面白さを感じて下さい。

作者の福岡伸一先生は京都大学卒の分子生物学者で、現在は青山学院大学で教鞭をとっている第一線の研究者です。であると共に、多くの書籍を出版している売れっ子の作家さんでもあります。2007年出版の「生物と無生物のあいだ」は科学書としては異例の65万部を突破し、大ベストセラーとなりました。本書は251頁しかありませんから、時間もそんなにとりませんよ！是非！

(かのう きお)

【医学2F 460/FUK 本館・2F閲覧室 460.4/F82】

● 研修報告

第54回中国四国地区 大学図書館研究集会

情報サービスグループ 金子尚登

日時 平成25年10月10日(木)～11日(金)
場所 岡山大学

この研究集会は毎年中国四国地区の各県の大学が持ち回りで開催しています。私は以前に参加したことがあり、今回はただ参加するのではなく発表者として登壇するため、発表の準備等むろし開催前の方が忙しくしていました。

プログラムは講師による講演、各大学職員による発表・報告、およびグループ討議という構成でした。

1日目は、まず日本大学文理学部の小山憲司准教授から「大学教育改革と図書館」と題した基調講演がありました。審議会答申等を挙げつつ、昨今の大学教育と大学図書館の傾向、さらに図書館が担う役割の示唆となるようなお話をうかがいました。中でも学習(学修)支援の文脈に図書館がどのくらい関われるのかという話題には、私自身が講習会等を担当していることもあり、今後のヒントになるお話でした。

講演二つ目は岡山大学社会科学文化科学研究科の倉地克直教授による「岡山大学附属図書館における所蔵資料を活用した地域連携事業について」でした。岡山大学の創設や資料収集において地元の協力があつたことをあげ、「地域貢献」は恩返し・義

務である」として、これまで行われてきた地域貢献事業をお話いただきました。

特に印象に残ったのは、岡山市との協力協定により、資料展示会場を大学内から岡山市デジタルミュージアム(岡山駅前)に移したことで、数百人だった参加者数が数倍に増加したお話でした。これは、地域と大学双方にメリットがある好例でした。

続いたの発表・報告は私が一番手として「島根大学図書館コンシエルジュの活動と学生協働交流シンポジウム」という題で発表を行いました。大学図書館における学生協働は関心が高いようで、発表後に個別に質問に来られる方もいらつしやいました。続いてその他四名の方から発表があり、中でも学生スタッフによるライティングサポート、相互貸借料金徴収方法の改善など新しい試みに刺激をうけました。

初日最後はブラウジング・コーナーとして図書館職員として比較的经验の浅いフレッシュなお二人から、自館の紹介や図書館で働く日常等の発表がありました。私も十数年前に大学図書館で働きました当初を思い起こしました。

2日目はグループ討議ということで、「図書館の学習支援」と「社会貢献」の二つの分科会に分かれて(私は前者に参加)行われました。規模、環境、設備など各大学の事情の違いもあり、意見のすり合わせがむずかしいように思いましたが、それでも「どんなサービス」という意見に収束していき終了になりました。

2日間参加してみて、今の業務にそのまま生かせなくても、考え方や方向性のヒントはいくつかもらえたので、今はそれのように形にして還元していくか思索しているところです。(かねこ なおこ)

平成25年度目録シス テム講習会(雑誌コー ス・図書コース)

医学情報グループ 錦織亜希子

【雑誌コース】
日時 平成25年8月28日(水)～30日(金)
場所 島根大学附属図書館本館

【図書コース】
日時 平成25年9月25日(水)～27日(金)
場所 広島大学霞図書館

この講習会は国立情報学研究所(NII)の教育研修事業の1つとして、毎年2種類のコースが全国複数の会場で開催されています。今回参加した2会場には中国・四国・九州地方からそれぞれ20～30名が参加しました。

「目録」とは図書館が所蔵する資料について書誌情報と所蔵情報を記したものです。NIIを中心に、日本の大学図書館等は共同で1つの目録を作成しています。これは、どこの図書館にどんな資料が所蔵されているのかを一つのシステムで検索可能とすることで、資料の共同利用の促進を図るためです。作成されている目録についてはWeb上で誰でも閲覧できます(Cinii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>)。

この目録は全国の大学図書館等職員が分担して作成する方式を採っているの

共通の作成ルールをそれぞれの担当者が理解する必要があります。今回の講習会はそのルールを学ぶ為のものでした。

参加者はまず事前にWeb上で約6時間程度のセルフラーニングを受けた後、3日間の集合学習に挑みます。セルフラーニングにおいて既に概要等は学習済みなので、集合学習では実際に実習課題を進めながら、実務に使えるように知識の定着を目指しました。

基本的な処理は、検索、書誌登録、所蔵登録の3段階に分かれます。今回両コースを受講して、それぞれ重要視されている処理段階が異なると感じました。図書は新版が刊行されたり、シリーズ物だったり、様々な様式のものがあります。どう書誌登録すべきか、ルールと照らし判断することが重要です。対して雑誌は継続刊行のため書誌の変化は少ないのですが、各図書館で所蔵している巻次が異なるため、それを検索しやすい既定の形で正確に所蔵登録することが重要だと感じました。

講習会の重要な側面として、参加者同士の親睦を深めることがあります。懇親会に加えて、共に机を並べて課題に取り組んだことを通して、同じ業務に携わる同士として自分もその一員なのだと感じました。これまで先輩方が作成して来た目録の積み重ねを損なわぬよう、より充実させていく一助となることが出来ればと思います。

(にしこり あきこ)

続いて、可動式テابلやホワイトボード、電子黒板（ビッグパッド）、プロジェクタ等を整備したラーニングcommonsや、展示スペース、さらには研究ゾーンの閲覧室に新たに設置した電動集密書架、利用する人数・用途に対応したグループ学習室、研究個室などを見学しました。



オープン展示

2013. 4. 4～ 6.28



リニューアルオープン記念して古代出雲文化フォーラムに係る展示を実施しました。オープン当日は多くの見学者が訪れていました。

図書館コンシェルジュが新年度の活動を開始

2013. 4.22

図書館オープニング企画 ブック★コンパス

2013. 4.23～ 7.10

リニューアルオープンに合わせ、“新入生への本の贈り物～あなたの思いを本に込めて”と題し、17名の教職員から新入生に薦める本29冊を、メッセージと共に2階ラウンジの展示ウォールで紹介しました。

希望と不安を抱いて入学した新入生に、教職員から本をとおしたメッセージを送ることで、図書館と本に親しんでもらうきっかけを作ることができました。

雑誌提供会

2013. 6. 5～ 6. 6

新任教員ガイダンス

2013. 5. 8～ 5.15

松江キャンパスの新任教員を対象に実施され、9名の参加がありました。館内ツアーのあと、図書の購入方法やデータベースの概要、ILLの申込みについてのガイダンスを実施しました。

学生選書ツアー

2013. 6. 5

小泉八雲の怪談展

2013. 7. 8～10.31



この展示会は2011（平成23）年に松江市の小泉八雲記念館から始まった巡回展で、ギリシャ出身のタキス・エフスタシウ氏のコレクションである八雲の翻訳本や、映画《怪談》のさまざまな言語によるポスターやスチール写真など、貴重な資料を展示しました。

本 館

遺跡資料リポジトリ・シンポジウムを開催

2012.11.15

附属図書館が事務局となって全国の21の国立大学附属図書館と連携して推進する全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトが、11月15日（木）、大阪大学附属図書館との共催により同図書館を会場に、シンポジウム「文化遺産の記録をすべての人々へ！―発掘調査報告書の電子化と公開を考える―」を開催しました。

シンポジウムは、遺跡資料リポジトリの普及・拡大を図る目的で毎年開催しているもので、2012年度はこれまでの5年間のプロジェクトの達成状況を確認し、CSI委託事業終了後のプロジェクトを展望するものとなりました。

『島根の国絵図-出雲・石見・隠岐-』を刊行

2012.12. 7



現在の島根県の出雲国、石見国、隠岐国で作成された国絵図（古地図）を豊富なカラー図版と解説で構成した『島根の国絵図-出雲・石見・隠岐-』を出版しました。

本書は、本学附属図書館が収蔵する国絵図の他に、広く県内外の機関や個人が所蔵する国絵図の写真85点を集め、研究者による解説を加えたものです。

島根県の出雲・石見・隠岐の国絵図を体系的に集めて解説した本は本書が初めてであり、また、都道府県単位でまとめた類書は他にほとんど例のない画期的なものです。

島根大学附属図書館コレクション展

2013. 2.23～ 3.10

本館で所蔵している貴重資料の特別公開展が松江歴史館で開催されました。小泉八雲の書簡をはじめ、シーボルトの修業証書、古地図などが展示されたほか、ほとんど公開されたことのない、オリジナルの堀尾期松江城下町絵図も展示されました。

読み終わった本で被災地の図書館支援

2013. 2.22



東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた陸前高田市の「陸前高田市図書館ゆめプロジェクト」に賛同し、本の収集を行いました。

家庭で眠っている不要な本を集めて業者が買い取り、その金額が図書館建設のために寄付されるというものです。

345冊が集まりました。

本館がリニューアルオープン

2013. 4. 4

平成24年6月から開始した耐震・機能改修工事を終え、リニューアルオープンしました。

オープン当日は記念式典が催され、小林学長、田籠附属図書館長及び大矢島根県立図書館長からの祝辞の後、竹内、辻両理事に学生代表を加えてのテープカットがあり、開館となりました。

講座等事務担当者への図書館説明会

2013. 6. 4～6. 5



2日間で3回に分けて説明会を実施し、合計15名の方に参加いただきました。図書館業務の円滑な実施と図書館サービスの利用促進を目的とし、

資料の購入方法や管理上の注意点、図書館の利用案内等を説明しました。日頃の実務に関する意見交換の場ともなり、貴重なご意見を多数いただきました。

不用雑誌の無料提供会

2013. 7. 4～7. 9

ブラウジングコーナーで保存期間が過ぎて不用となった雑誌を無料で提供しました。

西東文庫のパネル展示

2013. 8～

医学図書館所蔵の西東文庫に関するパネル展示を開始しました。西洋の息吹が感じられる明治初期の資料群について、豊かな挿絵を通して紹介しています。



報 道

新 聞

2012年12月 8日		日本海新聞
12月11日	国絵図図書出版	読売新聞
12月30日		中国新聞
12月31日		毎日新聞
2013年 1月27日	国絵図図書書評（法文・田坂教授）	山陰中央新報
2月 6日	松江歴史館による特別公開「島根大学附属図書館コレクション展」	山陰中央新報
2月13日	島根の国絵図刊行	産経新聞
2月15日		島根日日新聞
2月15日		島根日日新聞
2月19日	図書館コレクション展発表会見	毎日新聞
2月22日		産経新聞
		中国新聞
2月24日	図書館コレクション展開催	山陰中央新報
		朝日新聞
4月 5日	附属図書館リニューアルオープン	読売新聞
4月 7日		朝日新聞
		読売新聞
		山陰中央新報
		中国新聞
8月11日	世界で紹介された「怪談」松江・島根大図書館で展示	山陰中央新報
9月 6日	図書館利用 15大学探る島大でシンポ	読売新聞
		山陰中央新報

テレビ

2013年 2月24日	松江歴史館における附属図書館貴重資料展示について	NHKテレビ
4月 4日	附属図書館リニューアルオープン	NHKテレビ 日本海テレビ

目録講習会

2013. 8. 28～8. 30

「平成25年度目録システム講習会（雑誌コース）」が、本館を会場に開催されました。

講習会には西日本各地より29名の参加があり、3日間にわたり講義や演習を通して、総合目録データベースでの雑誌データの検索と登録・修正・削除を学びました。

大学図書館学生協働交流シンポジウム

2013. 9. 5～9. 6



本学を会場に、第3回学生協働交流シンポジウム「私たちの手でつくり出す図書館の形一人を惹きつける空間を目指して」を開催しました。全国の15の大学から約100名の学生や教職員が参加し、報告や交流会、ワールド・カフェによる対話をととして交流を深めました。

医学図書館

閲覧席照明の人感センサー工事

2013. 1. 13～1. 22

認証を受ければ24時間入館可能な医学図書館では、書架部分の照明に人感センサーを付けて節電に取り組んできましたが、今回これに加えて、閲覧席部分の照明にも人感センサー取り付け工事を行いました。開館時間中は継続して点灯しますが、夜間等の閉館時間中は人の動きをセンサーが感知して点灯します。

カーペットクリーニング

2013. 1. 19



2F閲覧室のカーペットの清掃作業を行いました。洗剤や真空除去で長年の埃を落とし、高温スチーム洗浄で殺菌も行いました。カーペットの市松模様や入館ゲートの矢印が鮮明に見えるようになりました。

卒業生より図書の寄贈

2013. 3

平成24年度看護学科卒業生第11期謝恩会より、卒業記念として図書11冊を寄贈していただきました。後輩の皆さんの学習に大いに役立つことでしょう。

病院新任職員へのオリエンテーション

2013. 4. 4～4. 5



4日に病院研修医25名、5日に看護師と栄養管理室職員合わせて53名に出席いただき、オリエンテーションを実施しました。図書館サービスを医療業務に活用していただくことを目的とし、図書館の基本的な利用案内から、文献データベースや電子ジャーナルの利用方法、文献複写の依頼方法等を説明しました。